

子宮頸癌

2013年に新たに子宮頸癌と診断された人は、全国で10,520人と推計され、年齢別では、20歳代後半から患者数が増加し、40歳代前半でピークとなり、その後横ばいとなります。最近では若い女性での増加、また晩婚化に伴い妊娠年齢の上昇から、妊娠中に癌が発見される機会も多いです。早期癌であれば、妊娠継続と癌治療の両立も可能ですが、進行癌では母体の救命を優先させる治療を行います。日本での死亡数は、約3,000人と推計され、世界的には年間でおおよそ27万人が死亡しています。

子宮頸癌の発生には、ヒトパピローマウイルスの感染が関連しており、患者さんの90%以上から検出されます。このウイルスは性交渉によって感染しますが、感染しただけでは特に自覚症状はなく、多くの女性が一生に一度は感染するウイルスです。感染しても通常は自身のもつ免疫機能によって、90%の人が2年以内にウイルスを排除します。しかし10%の人は、子宮頸部にウイルスが感染した後排除されず、長期的に定着してしまい、細胞の異形成（前癌状態）が進みます。

異形成は、軽度・中程度・高度の3段階あります。異形成で発見され適切な治療が行われれば癌となる前に治療することが出来ますが、異形成の状態を放置してしまうと子宮頸癌を発症します。つまり、ウイルスに感染しても、早い段階で発見、治療できれば、子宮頸癌へと進行することなく完治を目指せます。そのためには、子宮頸癌検診の受診が必要不可欠となります。

日本の場合、子宮頸癌検診の受診率が欧米などと比較して低く、過去1年以内に癌検診を受けた女性は、25%です。一方、欧米では日本よりも受診率が高く、アメリカの場合、18歳以上の女性のうち80%以上が、過去3年間に1回以上の検診を受けています。子宮頸癌検診は現在、自治体から女性の住民に対し、数年に1回、子宮頸癌のクーポンを配布して検診を促しております。

子宮頸癌は基本的に初期症状がありません。そのため進行するまで気づかないというケースが多いことが特徴です。初期の段階で子宮頸癌が発見できた人は、子宮頸癌検診などの検査を受けて発見できた、ということが多いのです。

他に罹患しやすい方としては喫煙者、多産、やせ型や、美人な人（個人的見解です）が挙げられます。一つでも当てはまれば検診を受けてみましょう。

【関連図書】

からだ情報プラザに
所蔵しております。
どうぞご利用ください





膵臓の病気
税所宏光監修(講談社)

膵臓が疲れる生活をしていませんか？
気づきにくい膵臓の病気がイラストで分
かりやすく説明してあります。



きくち体操
菊池和子著(宝島社)

足の裏を刺激して、一生歩ける体になる！
話題のきくち体操をイラストで紹介。
ぜひ試してみてください。



**高次脳機能障害のリハビリが
わかる本**
橋本圭司監修(講談社)

高次脳機能障害とは何か、効果的なりハビ
リとは、本人や家族のために大変参考に
なります。



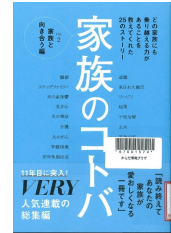
没イチ パートナーを亡くしてからの生き方
小谷みどり著(新潮社)

配偶者の死別から、どう立ち直って生き
ていくか、著者の経験からこれからの人
生に大きな示唆を与えてくれます。



「血管を鍛える」と超健康になる！
池谷敏郎著(三笠書房)

なぜ血管を鍛えれば若返るのか、見やすい
カラーイラストで解説されています。



家族のコトバ
VERY 編集部著(光文社)

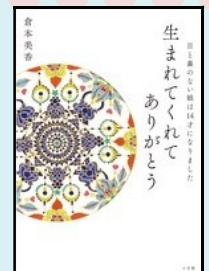
家族はいつも同じ形ではいられない、
だからこそ今の幸せを大切にしなければ
ならない、家族のコトバが心に響く1冊で
す。

お勧めの一冊

「目と鼻のない娘は14歳になりました」この本は目と鼻を持たず生まれてきた
女の子、千璃ちゃんとその家族について書かれています。

著者は米国で千璃ちゃんを出産します。しかし重複障害をもって生まれました。
障害を受け入れられず涙を流してばかりの日々でしたが、夫と支え合い、
千璃ちゃんを含む4人の子育てに明け暮れながら、米国での暮らしを続けます。
仕事と子育ての両立、千璃ちゃんの度重なる手術、施設入所について、著者は世間からの厳しい批判
にさらされます。それでも周囲の人々に支えられ、前へ進んでいきます。

医療事情、障害者福祉など各国に違いはありますが、生きること、支え合うことは変わりません。
日本で起きた数々の震災、障害者施設で起きた事件にもふれ、「生まれてきてくれてありがとう」の
意味を考えさせられる一冊です。
(看護部 渡邊恵子)



【がん相談支援センターからのお知らせ】

毎月1回、総合医療センター3階の患者図書室に於いて、がん患者サロン『あづまっぺ』を開催し
ています。がんにかかれた方やご家族の方、お茶を飲みながら、一緒にお話ししませんか？

参加予約は不要です。どうぞ、お気軽にご参加ください。

【ミニミニ講演の予定】

◇2月26日(火) 14時～「抗がん剤の効果と副作用について」 薬剤師 木本 真司氏

◇3月26日(火) 14時～「ストレスマネジメント」 臨床心理士 芳賀沼 奈未氏

がん相談支援センター 古沢しのぶ